

## 2022（令和04）年度 東北アジア研究センター共同研究報告書

提出 2023（令和5）年5月19日

代表者 荒武 賢一朗

（本報告書はセンター内外への公開を原則とします）

研究題目	和文) 歴史資料学の実践 —福島県須賀川市における地域史研究— 英文) Practice of the history document study : The local history study of Sukagawa City			
研究期間	2022（令和4）年度 ～ 2023（令和5）年度（2年間）			
研究領域	(D) 自然・文化遺産の保全と継承			
研究組織	氏名	所属・職名	専門分野	役割
	荒武 賢一朗	東北アジア研究センター・教授	歴史学、日本経済史	研究代表者
	野本 禎司	東北アジア研究センター・助教	歴史学、日本政治史	研究分担者
	竹原 万雄	東北アジア研究センター・助教	歴史学、日本社会史	研究分担者
	酒井 一輔	東北大学大学院経済学研究科・准教授	歴史学、日本経済史	研究分担者
	伴野 文亮	東北大学大学院文学研究科・専門研究員	歴史学、日本文化史	研究分担者
	管野 和博	須賀川市立博物館・学芸員	考古学、博物館学	研究分担者
	宮澤 里奈	須賀川市立博物館・学芸員	歴史学、日本文化史	研究分担者
	渡辺 哲也	須賀川市役所文化交流部文化振興課・学芸員	歴史学、日本中世史	研究分担者
研究経費	学内資金	センター長裁量経費 [金額] 291,951 円		
	外部資金(科 研・民間等)	寄附金(上廣歴史資料学研究部門)	[小計] 37,780 円	
	合計金額	329,731 円		
研究の目的と本年度の成果の概要 (600-800 字の間で 専門家以外にも理解 できるようまとめて ください。)	<p>東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門は、2019 年度より須賀川市立博物館と共同で歴史資料保全活動を実施している。この基礎調査（資料の保存・写真撮影・文書目録作成）の成果は、博物館のテーマ展や市民講座、そして文書目録のウェブ掲載などで公開を進めたが、いずれも個別の文書群を紹介する目的であり、須賀川市域および周辺の包括的な歴史分析には至っていない。そこで、センター教員のみならず、学内の研究者および須賀川市の学芸員も加わり、13 世紀から 20 世紀に至る長期の地域史研究を推進し、歴史資料学（既存の歴史学に、資料保全や文化的資源の活用を加えた学問領域）の確立に向けた取り組みを進めたい。</p> <p>本年度は、各自の専門分野における研究水準を確認しつつ、基礎資料の整理や新たな調査の実施を進めることができた。その成果として、①戦国時代以前の考古資料および文献資料分析、②近世都市（奥州街道須賀川宿）の古文書調査、③近代須賀川町に関する公文書および俳諧資料の調査、の 3 点を中心に素材収集を行った。これらの調査については、</p>			

	<p>研究会議を2回（2022年11月・2023年2月、於須賀川市立博物館）実施し、組織内で情報共有を図り、次年度に向けた具体的課題の設定を議論している。</p> <p>共同研究の中間報告的な位置づけとして、須賀川市立博物館主催のテーマ展・市民講座を開催した。テーマ展は、江戸時代における須賀川町の自治を主題に構成し、上記②で得られた古文書および美術資料を紹介することができた。市民講座はテーマ展開催期間中にシリーズ全4回として、考古・歴史・美術の各論について研究組織メンバーが講師を務めている。</p>		
本年度の活動における東北アジア地域研究としての意義についてアピール	<p>歴史資料を中核に据えながら、地域の文化的特徴を深く掘り下げることは日本のみならず、東北アジア地域全体で共有することのできる研究手法である。また、人文学を基礎としつつ、隣接諸科学との接点も視野に入れ、新たな研究モデルの萌芽を目指している。</p>		
研究集会・企画	研究会・国内会議・講演会など：6回	国際会議：0回	
	研究組織外参加者（都合）：100人	研究組織外参加者（都合）：0人	
研究成果	学会発表（0）本	論文数（0）本	図書（0）冊
専門分野での意義	[専門分野名] 歴史学	[内容] 研究対象地域における中世から近代の通史的考察	
学際性の有無	[有]	参加した専門分野数：[3] 分野名称[歴史学・考古学・博物館学]	
文理連携性の有無	[無]	特筆事項：	
社会還元性の有無	[有]	[内容]博物館展示や市民講座で社会へ研究成果を還元する。	
国際連携	連携機関数：0	連携機関名：	
国内連携	連携機関数：2	連携機関名：須賀川市役所、須賀川市立博物館	
学内連携	連携機関数：2	連携機関名：経済学研究科、文学研究科	
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数：0	参加学生・ポスドクの所属：	
第三者による評価・受賞・報道など	なし		
研究会計画全体の中での当該年度成果の位置づけと今後の課題	<p>初年度は基盤形成に集中することを計画していたため、その目標は達成できた。加えて、博物館主催事業と連動したことにより、これまで進捗のあった課題を公表する機会を得た。次年度の課題としては、引き続き調査内容の発信と、学会発表や論文執筆を積極的に行いながら、研究会議によって有意義な共同研究の結論を導き出したい。</p>		
最終年度	該当 [無]		

## 本共同研究に関わる業績（発表予定含む）

[学会発表]

[雑誌論文]

[その他]

- ・須賀川市立博物館令和4年度テーマ展「内藤家文書にみる須賀川の江戸時代」（2022年10月25日～11月27日開催）
- ・別冊史の杜7号「地域の歴史を知る：内藤家文書にみる須賀川の江戸時代」（東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門、2022年10月25日発行）
- ・須賀川市立博物館令和4年度すかがわ歴史講座（2022年11月・12月、全4回）
  - 第1回（11月12日）渡辺哲也「古文書解読講座—往来物をよむ」
  - 第2回（11月19日）宮澤里奈「亜欧堂田善の足跡をたどる」
  - 第3回（11月26日）荒武賢一郎「近世須賀川における町人たちの活動—自治都市の源流—」
  - 第4回（12月3日）管野和博「収蔵資料鑑賞「土器の実測に挑戦」」
- ・東北アジア研究センター叢書『文政10年東北農村の御用留—須賀川市桑名家文書から—』（2023年度刊行予定）

\*ファイル名は KyodoRpt\_年度\_代表者ローマ字とする。二つある場合、代表者名の後に1, 2と記入する（例 KyodoRpt\_2013\_oka1）。